

令和4年3月19日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 令和4年度 第3回

新しい体験

おはようございます。このところ陽気が暑かったり寒かったりで体調を崩しかねませんし、コロナも家庭に入り込んで来ていますから注意をせねばならないと思っています。身内の方やご近所、知り合いコロナに罹った方もおられるのではないのでしょうか。最近、ワクチンを打った後に体調をおかしくして、一気に体力がなくなって来るという話も聞きます。氣をつけていても、更にワクチンを打って対策をしても、それが逆目に出る場合もあります。家庭で子供さんやお孫さんが幼稚園や学校で貰ってきて家族全員が罹ってしまう、いわゆる家庭内感染も増えているようです。

念押しになりますが、コロナは <よく食べ・よく動き・よく眠る>、これを徹底していけば、仮に濃厚接触者になったとしても跳ね返すのではないかと思っています。<よく食べ・よく動き・よく眠る>、私自身が実践をしておりますので、どうぞ参考にしてください。

最初から脱線を致します。先日、東京フォーラム会員の清水先生が関係しておられる健康医療開発機構が開催したオンライン講演会に参加しました。「新型コロナウイルス感染症からの学び」というテーマで、東京都医師会の尾崎会長はじめ3名の先生方の講演を聞き、その後シンポジウムをするという試みでした。健康医療開発機構のお話は時々させて戴いておりますが、良いなと思う催しがあった時は、またご紹介させて戴きます。

お陰様で後期高齢者の免許証が更新されました。健康保険証も届きました。後期高齢者という括りになりましたので、意識的に色々な事に頭を使うようにせねばならないと思っています。同じ事を同じようにやってゆくのではなくて、びっくりするような体験を幾つかしよう、出来れば毎日新しいものを体験しよう和前々から考えておりました、昨日一つ実践をしましたのでご紹介します。

私はコストコという大型スーパーに行ったことがありませんでした。群馬県内にコストコが出来たのはだいぶ前ですが、会員以外は入れないという事で行きませんでした。今回、初めて行ってみましたら、結果としてコストコでどさっと買い物をしてしまい、一所懸命

食べていたら毎日毎日体重が増えました。一通り食べ終わると少しずつ体重が減り始めましたので、人間の身体は何と単純なことかと感じました。それから、あれだけ大量に商品を扱っても消化するのだと驚きました。また、コストコに入る時は会員でなければ入れないし、出る時はレシートとカートの中身をチェックしてからでないといけない仕組みになっていて、従来とはやり方が違うと思いました。

コストコは建物を上に伸ばすのではなく、平面に広げることでコストカットを図っています。日本一のスーパーだったダイエーさんに追いつき追い越せと事業展開をしたいせやさんは、横に広げる事を意識的にやって、今はベイシア・カインズ・ワークマンと業績を伸ばし、目標としていたダイエーさんを追い越したなど感じます。近隣の商業施設を眺めてみても、横に展開する商売をする所がどんどん増えていると思います。

先日、シムックスが警備を受注した関係で、深谷市にある現在建築中の花園アウトレットモールを視察に行きましたが、ここも横にずーっと広がっていました。今はアウトレットモールという名前だけで沢山のお客さんが来るようです。専門店が300軒くらい入ることですから、自分の所で商品を仕入れて売るのはではなく、大家さんとしての業務で利益を上げるわけです。イオンも、イオンモール・イオンリテール・イオンディライトと幾つかの子会社が一軒の中で役割分担をして仕事をしています。その中では大家さんとしての収入が非常に多いということですが、それと同じような形態をアウトレットモールもとっているのだなと思いました。

戴いた深谷市の資料を見ると、花園アウトレットの商圏は群馬県からのお客さんが多いと見当をつけているように感じました。

従来の仕事を従来通りにやっているのでは衰退していく。新しいやり方、新しい商圏、新しい手法を取り入れていく所がどんどん伸びる。そう考えると、デジタルを上手に取り込んで行かなければいけないと思っています。世界的に眺めれば、アマゾンがどんどん伸びているという事は、以前からあった大きな会社がどんどん潰れていく状況につながります。それに対抗する会社群が、また力を伸ばして来ています。そういう人たちはデジタルを上手に取り込んでいるわけです。

ちなみに、先ほどの花園アウトレットモールさんには、シムックスが見積もりを提出する際、新しい手法ということでドローンによる渋滞状況やカメラによる駐車場の監視等を提案しました。費用対効果でコストがかかりますから難しい部分ではありますが、こういった提案に対して、かなり興味を示して戴いたようです。

もう一つ、市内の或る工場にシムックスが提案させて戴いたのは、顔の認証システムを

使って工場内部の動線管理や勤怠状況を確認するシステムです。このようにお客様の方も、どんどん新しい事を取り入れていただけるので、シムックスもどんどん形を変えていかなければいけないと痛切に感じています。

世の中がどんどん変わって来ています。自分自身も、自ら一気に変えていかなければいけないだろうと思っています。

第三次世界大戦の可能性

今日の日経新聞に「物価上昇 4月以降2%」という見出しがありました。黒田総裁は金利に触れるつもりはないと発表していましたが、金利を上げるなどと言えるわけがない。金利を上げると言ったならば、日本の企業はバタバタ倒産していくことが目に見えているからです。しかし世界の大勢はどんどん利上げをしています。秋口になると日本が孤立した状況になるでしょうから、どうしても金利に手をつけなければならなくなって来ると思っています。

そういう状況下、ソ連がウクライナに戦争を仕掛けたところで、プーチン大統領の誤算とか病氣とか色々な要素が絡まって、世界を相当おかしな方向に導き始めています。最悪のパターンは第三次世界大戦です。私は中国が引き金で始まると思っていましたが、ロシアが第三次世界大戦の幕を切って落とす可能性が非常に高まりました。理由は、プーチンさんがもう正常ではなくなっているからです。

今までの感覚では、アメリカもソ連も核ミサイルの発射命令をいつでも出せるように、トップが核のボタンを後生大事に抱えていると思っていました。しかし、ロシアは危機が発生したことをAIが認識したなら、自動でボタンを次々に押して、設定している各国に核ミサイルがどんどん発射されていくという、まるでSF映画の世界が現実に準備されているということです。核のボタンを押す人間が正常でなくなった、或いはその人間が死んだなら、AIが機能して続けざまに核発射のボタンを押し始める。そうなると、もう第三次世界大戦になります。もっともその前に幾つかの問題が出て来ますが、大きな戦争というものは今まで偶発的に起きています。私は偶発的な要素がちょっと増え過ぎたと思っています。

論語解説

では、素読を致します。本日は、堯曰篇第一です。

論語は大概ミクロの話が多いのですが、この章はマクロです。歴史的な見方になります。

ぎょう いわ ああ なんじ しゅん てん れきすう なんじ み あ まこと そ ちゅう と し
【一】堯 曰く、咨、爾 舜。天の暦数、爾 が躬に在り。允 に其の中を執れ。四
かいこんきゅう てんろく なが おわ しゅん また もっ う めい
海困窮せば、天禄 永く終らんと。舜も亦 以て禹に命ぜり。

中国の場合は大体、王朝が変わる時には前の王朝に関係する重要な人間は皆殺されて、歴史も次の王朝にとって都合の良いものに改ざんされる。それが中国の易姓革命のしからしむところであろうと感じます。堯から舜に帝位がうつる時は、平和な状態で譲られました。

「中」は、中庸と捉えればよろしいでしょう。儒教では中庸、仏教で中道です。安岡正篤先生は、「中」とは一つ上のレベルに行く、一階梯上がる、それを「中」と定義づけています。普通は右と左でバランスをとって真ん中という解釈をしますが、左右ごちゃ混ぜになったものから一つ上に抜け出て、上がっていく。そういう感覚で「中」を捉えます。

堯から舜にバトンタッチした後、舜も同じように禹に命じたわけです。

いわ よ しょうしり あえ げんぼ もち あえ あき こうこう こうてい つ つみあ あえ
曰く、予 小子履 敢て玄牡を用いて、敢て昭らかに皇皇たる后帝に告ぐ。罪有るは敢
ゆる てい しん おお えら てい ところ あ わ み つみあ ぼんぼう もつ
て赦さず。帝の臣は蔽わず。簡ぶこと帝の心に在り。朕が躬 罪有らば、万方を以てす
な ぼんぼう つみあ つみ わ み あ
ること無かれ。万方 罪有らば、罪 朕が躬に在りと。

「小子」は私自身、「履」は湯王のことです。「玄牡」は黒毛の牡牛ですから、大変素晴らしい供物を天帝に捧げました。

「簡ぶこと帝の心に在り」・・・あくまでも天帝のお気持ち次第ということ。責任はすべて私にある、という言い方はなかなか出来るものではありません。ただ、歴代の天皇陛下は事あるごとにこういう表現をしておられます。マッカーサーが日本に進駐して昭和天皇と会談された時、天皇が「責任はすべて私にある」と言われたのを聞いて、マッカーサーは大変驚き日本人のものの考え方に対して自分の考えを改めたと伝わっています。

しゅう おお たまもの あ ぜんにん こ と しゅう しん あ いえど じん じん し ひやく
周 大いなる 賚 有り。善人 是れ富めり。周 親有りと 雖も、仁 人に如かず。百
せいあやまちあ よ いちにん あ
姓 過 有らば、予 一人に在らん。

「大いなる賚有り。善人は是れ富めり」という部分で、先ほどお話したロシアのウクライナ侵攻に絡めて申します。ロシアが戦争を仕掛けたことによって浮かび上がって来た氣に

なる国々は、中国とウクライナです。ソ連、中国、ウクライナには共通項があります。いずれも賄賂が横行する汚職大国だということです。

何度かお話していますが、私は経済破綻を起こした国々がなぜそうなったのか知りたと思ってロシア・アルゼンチン・トルコ・ブラジルに行きましたが、共通するのは、賄賂が横行している事でした。中国にも行きましたが、中国の場合は賄賂が当たり前のように仕組みとして成立している国だと感じています。そういう点からいくと、腐敗した国はもう長続きはしないと私は考えています。アルゼンチンはハイパーインフレが5000%でした。トルコも一番凄い時は10000~20000%と、凄まじいインフレが起きました。かつて最大のインフレが起きたドイツでは、馬車に札束を載せて昼ごはんに出かける写真が教科書にも載っていました。それから見ると日本は、ハイパーインフレがあったといっても、かわいいものだと思います。

そういう状況を踏まえて、ロシア・ウクライナ・中国を見ると、ロシアが戦争を仕掛けた事によって、欧米はお金で締め上げることをしましたから、ロシアは非常に困り始めています。いわゆるスタグフレーションが始まり出しています。プーチンさんが一番困るのは、彼が欧米の国々に隠している私有財産を抑えられてしまったことです。逆にプーチンさんはロシアにある各国の企業の財産を没収にかかっているからお互い様のようなものですが、プーチンさんはそこらへんの企業の財産と比べても桁が違うほどの私有財産を持っています。これは腐敗した国のトップだからです。ただ、仕組みとして中国のようにはなっていないと思います。習近平さんの私有財産は、見当がつかない天文学的な数字になっているのではないかという気が致します。

ウクライナは今のところ被害を被っているという事で、ゼレンスキー大統領はとても清廉潔白のような人に見えます。中傷するわけではありませんが、ゼレンスキーさんも大統領になってから相当な私有財産を蓄え、欧米に豪邸を持っていると聞きます。

ですから腐敗だらけの国が腐敗だらけの国を攻撃していると私には見えます。欧米諸国の腐敗・賄賂と比べると、ロシアもウクライナも桁が違います。ロシア・ウクライナ・中国の上部機構に属している人たちは、「善人は是れ富めり」というのかと感じましたし、善人という者はいったい何処にいるのかと、この文章で気になりました。

けんりょう つつし ほうど つまびらか はいかん おさ しほう まつりごとおこな めつこく
権量を謹み、法度を審にして、廢官を修むれば、四方の政行わる。滅国を
おこ ぜっせい つ いつみん あ てんか たみ ところ き おも ところ 民しよくそうさい
興し、絶世を継ぎ、逸民を挙げれば、天下の民心を帰す。重んずる所は民食喪祭。
かん すなわ しゅう え しん すなわ たみにん びん すなわ こうあ こう すなわ
寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち民任じ、敏なれば則ち功有り、公なれば則ち

よろこ

説ぶと。

「権量を慎み、法度を審にして」という部分で、「文藝春秋」4月号に藤原正彦さんが中国について書いた文章をご紹介します。藤原さんの文章は独特で、ユーモアを使って面白い文章を書かれる学者だと思っていつも読みます。その中で、「中国人商人は秤を三つもつ」とありました。真っ当に商売をしなければならない人には普通の秤、騙せると思った人には少ない秤、胡麻をすらなければならない人には大きな秤・・・と、相手の様子をみながら大中小どの秤を使うかを決めているのだと紹介していました。「権量を慎み」とは全く違うではないかと思って読みました。藤原正彦さんに言わせれば、中国人の考えた論語は素晴らしいことが沢山書いてあるけれど、あくまで理想であって、その通りにっていない国の見本のようなものだ、と諧謔精神で書いておられると感じました。

秤に関してもう一つ、渡部昇一さんが書いたものを思い出しました。日本人は思ったことをきちんと表現する能力には少し欠けるけれども、実行している内容を見ると、正直で勤勉で真面目で実直だ。それは秤の在り方を見れば一目瞭然だという内容でした。

同じ権量を比較して批評する時に、藤原正彦さんと渡部昇一さんでは、これほど視点が違うものかと感じました。

ちなみに、渡部昇一さんはノーベル経済学賞を受賞されたハイエク先生の通訳として色々な所に同行されました。おかげでハイエク先生のもの考え方を身近に知る事が出来た、自分自身の眼が開かれる体験が出来て大変有難かった、と随所で語っておられます。私の師匠の木内信胤先生も、ハイエク先生に出会って眼が開かれたと言っておられました。師と仰ぐ素晴らしい人物に出会って自分の判断基準が確立したというわけです。

「縦の学問・横の学問」とよく申し上げますが、縦の学問は自分自身が物事を判断する判断基準、一本ピンと通った背骨です。横の学問は沢山の知識をどんどん広げていく。そうすると、或る日突然それらの知識が融合して一つにまとまると、縦の中にすっと入っていきます。そうなればしめたもので、自分の持っている判断基準を胸を張って活用できるようになります。

「滅国を興し、絶世を継ぎ、逸民を挙げれば、天下の民心を帰す」という部分は、今のウクライナ情勢をみれば、ロシアは正反対の動きをしています。

滅びた国を再興し、途絶えてしまった皇位を縁戚の中から探して継がせ、去ってしまった人々をまた集めれば、民は君子に心を寄せるだろう・・・プーチンさんが読めば、その

まま活きるのではないかと感じます。プーチンさんの言動を見ると、ウクライナは心の故郷だと言い、ウクライナはロシアの聖地であるから当然ロシアに帰属していなければいけないという言い分です。

ウクライナにすれば、ずっと侵略されっぱなしの国です。最初はモンゴルに侵略され、ポーランドに侵略され、最後はロシアに征服されて組み込まれた…という意識をウクライナの人々は持っているわけです。ロシアはウクライナ語の使用禁止令を13回も出しています。そして今、現時点でちゃんとした国であるのに、国が滅ぼされようとしているわけです。

この部分は、ロシアと中国がダブリますね。中国も近隣諸国を領土に組み込んで、例えばチベットではチベット人同士の結婚を認めないし、言葉もチベット語を使わせない、宗教も同じです。ですから完全に同化政策を進めているわけです。ロシアも同じことをやっていますが、やり方としては中国の方が行き過ぎていると感じます。

今、中国とロシアは両方とも周りから叩かれていますから、一つ穴の貉になってきました。ですから手を結ばざるを得ない。結んだ後はまた離反する事になるとは思いますが、お互いが相憐れむ、また手を結ばなければならない状況に来ています。

「**重んずる所は民食喪祭**・・・」国民の重んじる所は、食（食べ物）・喪（先祖を弔い敬う儀式）・祭（先祖を祀り、民の気持ちを一つにする地域のイベント）である。それらを手厚くすれば国民は喜び、君主を信頼し一丸となって前に進んで行くと言っています。

この文章に書かれている、堯・舜・禹・・・と歴史的なものを踏まえて日本の国を見ると、日本は万世一系でずっと一つの血筋が続いていく天皇制があるためにコアが生まれている。そのコアがあることによって、日本人を日本人たらしめているのだと感じます。それはこういう文章と照し合せてみると、強く思います。欧米もそうですが、一つの国を滅ぼしたら、普通は前の王族は皆殺しにあうわけです。日本は、相手を皆殺しにはせずに家を助けるといった動きをする。どうしてそういう違いが生まれて来たのでしょうか。俯瞰してみると、日本は島国で周りが海ですから水や食べ物が豊富といった地理的な条件と、同時に精神的には皇室の存在が大きかったと感じています。

今まで論語の解釈では一つ一つのやり取りを見ましたが、堯曰篇は歴史的なものに目を向けて戴きます。ですからここを読む時には、歴史的な知恵が自分にどれくらいあるか、そのリトマスでもあると思って下さい。

今の時代に置き換えて考えるという部分で付け加えると、夏に参議院選挙がありますから、参院選については「孫子の兵法」を頭に置いて眺めると自分の判断基準がまた一つ進むだろうと思います。是非、『孫子』も一度読んでおくということをお勧めします。

『孫子』は如何に嘘をつくか、如何に人を騙すかという観点で書かれています。戦争の時は嘘の付き合い・騙し合いです。今、メディアがフェイクニュースだとか偽情報を流しているとか騒ぎますが、戦とはそういうものだという定義づけが大昔からあるわけです。日本は、「やあやあ我こそは！」と敵方に口上を述べて正々堂々と戦うスタイルが良いと思われていますが、中国や西洋の古典では『孫子』が大変重要視されます。嘘の付き合い・騙し合いで、騙された方が負けるという考え方でやっているのです、そこら辺を間違えるといけないなと思っています。それを今、改めて日本人が感じ取れるのが目の前の参議院選挙であり、この捉え方によって中国の古典やヨーロッパの戦争の仕方も見えてくると感じています。

恒例の質問

では、恒例の質問に入ります。もう3月になりましたから、今年に入ってから今日まででお聞きします。

○ 今年に入って、良い日が続いていると思う方

あくまでも主観でお考え下さい。或いは過去形で眺めると、とても苦しい事があったけれども後で考えると自分が鍛えられたと思えるものです。西郷隆盛は沖永良部島に流されて、死ぬか生きるかの思いをしました。しかし、そういう状況も西郷隆盛を鍛えることになった。西郷隆盛を偉人たらしめたものは、30代後半から40代前半の動きだったと思っています。ですから、辛い・苦しい体験をした時がその人を鍛えたと考え、大変だと思えることも良い日だったと言えると思います。

○ 今年に入って、嘘はつかないし、嘘もつかれていない方

○ 今年に入って、有難うと言ひ、有難うと言われることが多い方

○ 今年に入って、身体の手入れを更によくやっている方

○ 今年に入って、自分磨きをかなりやっている方

○ 昨晚寝る時、明日以降を過去形で考えて寝られた方

明日やる事を、<出来て良かった>とイメージして眠れば素晴らしいと思います。

令和4年を考える

今年は壬寅（じんいん）、素晴らしい年回りと申しました。これは反対側から見ると、

邪悪な人物が出る年回りと言ってもよいわけです。ですから大変良いか、大変悪いか、それが出てくる年回りだと考えております。

韓国の大統領選が終わって、次期大統領が決まりました。尹さんが素晴らしく良いのか、大変悪いのか、これは少し時間を置いてみなければ分かりません。それも韓国人の目で見ると、日本人の目から見るとでは全然違います。ただ、どちらか偏るであろうと思います。ですから、偏る人が出る時期だとお考え戴ければよいでしょう。

○人が世に出るチャンス之年・・・ポイントは、チャンスだと思えるかどうかです。最近、ようやくスタグフレーションという言葉が当たり前になりました。私は、スタグフレーションという言葉で10年くらい前に使ったと思います。その時は全然通じなくて、「不況下における物価高」という説明をしていました。5年くらい前から具体的な説明を幾つかしていたと思います。それが最近、メディアでもスタグフレーションという言葉がかなり登場して来ました。新聞やテレビ、ネット等で目にした方も多いと思います。それくらい世の中でスタグフレーションという言葉が当たり前になって来ました。

スタグフレーションということは、チャンスであると思います。ものがなくなりますから、なくなりそうなものを自分の裁量で手元に置けばよい。そうするとピンチがチャンスに変わって来ます。自分が今現在必要だと思うもの、これから半年・1年後に必要だと思うものを、まだ世の中にありますから押さえておけばよい。例えば、物を作っている会社ならば、材料を少し多めに押さえておけばよいし、原材料を間違えなく入手できるルートを確認するものにしておけばよいわけです。そういうことが世に出るチャンスの活かし方だと思っています。

○コロナとは共存・・・コロナは、あと5年くらいは続くでしょう。オミクロン株の亜流が出てきています。ワクチンは軽いコロナに罹らせるということですから、それを打つ事によって身体に障害が起きたり病気になることは当然あり得ると思っています。ですからコロナ絡みでまとめると、まだまだ5年は続くだろうと考えています。

○次の人を育てる・・・今は大小に関係なくM&Aがごく当たり前になって来ています。銀行も利ざや稼ぎが出来ませんから、M&Aで仲介手数料を稼ぐという所もあるようです。現実には、仲介手数料をとらずにネットで買い手を紹介するというスタイルもかなり増えています。廃業する・倒産するよりは何とか事業を伝えたい、という人たちが世の中に沢山いるのだらうと感じています。

ちなみにシムックスも、仲介があつて会津若松の警備会社を1社引き取りました。先日会津若松に行って来ました。現役に戻ったら、行く所が増えました。また、私の性格としてチャンスだと思ったらどんどん進め！というスタイルですので、動き回っておりまして、

少しずつ身体と頭が若返り出したかなと感じております。

お時間になりました。今年チャンスの年になる、そう思ってお過ごし戴ければと存じます。